

地域医療連携クラウドサービス

来月、福島で試験運用

久保田情報技研

久保田情報技研（東京都渋谷区、久保田俊雄社長、03・5456・8066）は、7月をめぐり福島県で地域医療連携

システム「ゆめ在宅サービス」の試験運用を始める。塙厚生病院（福島県塙町）と周辺の訪問看護ステーションなどに、情報端末約15台を納入。患者の情報を複数の医療機関で共有するほか、往



診に米アップルのタブレット端末（携帯型情報端末）「iPad（アイパッド）」を使うことで、在宅診療を効率化する。試験運用を経て、10月をめぐりサービスを正式に始める。月額利用料金はパソコン1台当たり5

万2500円、アイパッド1台当たり3万1500円を想定。全国の医療機関に販売し、初年度3000ユーザーの獲得を目指す。

往診先ではアイパッドから久保田情報技研のサービス上の医療連携システムに接続し、患者の基本情報、検査情報、画像などを閲覧できる。また新規の情報入力も可能。複数の医院や訪問看護ステーション、調剤薬局など多くの医療機関で導入すれば、在宅療養者の情報共有や関係機関の連携につながる。

002年から和歌山県で運用する地域医療連携システム「ゆめ病院」をもとに開発。同システムは買い取り式で数千円円の投資が必要だったが、安価に提供することで、医師会などのグループのほか、個別の医療機関にも導入しやすくする。

省が12年度在宅医療連携拠点事業の採択予定者とする全国105カ所の医療機関などの一つ。久保田情報技研はクラウドサービスを採択予定者のほか、全国約10万カ所の医療機関のうち、在宅医療に取り組む医療機関、在宅医療を始めたい医療機関に販売する計画だ。